

目次

| | |
|------------------------------------|-----|
| 田上時子のエッセイ 監視社会の足音 | 1 |
| 特集 子どもの虐待 ～幸せを感じる力をはぐくむために～ | |
| 田上時子インタビュー | 2～3 |
| 活動報告 スター・ペアレンティング学習会 | 4 |
| ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会レセプション | 5 |
| エル・コラム②…「市民活動支援事業」..... | 5 |
| リレーエッセイ 西田ゆり子／落合桂子..... | 6 |
| 講座インフォメーション | 7 |
| 会員の紹介・入会のおさそい..... | 8 |
| 編集後記 | 8 |

田上時子のエッセイ

監視社会の足音

映画が好き。特に映画館のスクリーンで観るのが好きだ。

気分転換に映画館に足を運ぶことがあるが、最近では気分転換どころか気分が滅入ってしまうことがある。

本編までが実に長い。

「上映中のおしゃべりはいけません」「上映中の携帯電話は禁止です」「飲食は予告編の間にしてください」「前の席を蹴ってはいけません」など禁止事項が並べられ、更に予告編の後にはCM「NO MORE 映画泥棒」の上映。このCMは本編に先付けされているので、観客には見ないという選択肢はない。

「劇場内の映画の撮影・録音は犯罪です。(中略)不審な行為を見かけたら劇場スタッフまでお知らせください。ただちに警察に通報します」というコピーがスクリーン一面に映し出される。

昨年5月、参議院本会議で「映画盗影防止法」が可決・成立した。目的は、「盗影により作成された海賊版ソフ

トが流通し映画産業に多大な被害を与えているのを防止し、映画文化の振興、映画産業の健全な発展に寄与する」とある。このCMは、映画に関する4団体からなる「映画館に行こう！」実行委員会による製作。

海賊版を作るために盗影するのは許されない行為だが、観客たちが見張り役をし合うことを呼びかけるキャッチコピーが躊躇なく使われることに薄ら寒さを感じる。

日本はかつて治安維持法、軍機保護法など、近所同士が監視しあう仕組みが作られていた。その管理社会がここ数年「ふつう」になりつつあることが何だか不気味だ。

「戦争を知らない」わたしの世代は生まれたときから「自由」を享受してきた。その自由が一つずつ奪われる危機感を感じている。鈍感になってはいけなくて考えている。

